

いなみ野の風

特定医療法人社団仙齡会いなみ野病院
住 所 加古川市平岡町土山字川池423-2
TEL 078-941-1730
FAX 078-941-1734

ホームページアドレス <http://inamino-hp.senreikai.org>
メールアドレス inamino@senreikai.org

いなみ野病院 院内・院外広報誌

編集：いなみ野病院 I M 広報委員会

院内感染対策委員会の活動

いなみ野病院 副院長 嘉悦 博

この2年間、いなみ野病院の感染対策に携わってききましたので、院内感染対策委員会の活動について紹介します。

院内の感染対策はICT委員会(感染制御チーム)で行っています。ICT委員は各病棟の看護師、薬剤師、事務部門、医師からなり、次の様な活動をしています。

毎月1回のICT委員会の開催と病棟のラウンドを行い、適切に消毒薬、消毒法などの感染対策マニュアルが実践されているかを評価する。年2回の感染対策についての講演会を、全職員を対象に開催する。院内の感染症発症と細菌検査の動向調査を行い、実態を把握しておく。ICT委員は院外の研究会へ出席して、知識の向上に勤める。年に3〜4回の感染ニュースを発行し、職員に話題を提供する。

毎月1回のICT委員会では、各委員が院内感染対策の問題点、疑問などについて意見を交換し、必要な事項を決めています。

院内感染対策の1例としてMRS A対策について述べます。

1941年にペニシリンが開発されましたが、数年でペニシリンに効かない菌(耐性菌)が生まれました。この様にどのような抗生剤にも、必ず耐性菌が出現してきました。感染症の原因の1つの黄色ブドウ球菌も、最初はペニシリンで効果があつたのですが、数年で耐性菌が生じ、最近ではペニシリンのみでなく多くの抗生剤に耐性を持つ、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)がよく検出されるようになりました。抗生剤を使用したための耐性菌なので、その菌による発病は、院内で生じた院内感染という言葉が使われました。

特定医療法人社団仙齡会 いなみ野病院

基本理念

当院は、患者さんを尊重し、患者さんから信頼される安全で質の高い医療を提供することによって、地域の高齢者医療の向上に努めていきます

基本方針

- 1) 時代の進歩に即応した質の高い安全な医療を提供するために、日々研鑽と努力を重ねます
- 2) 高齢化社会のニーズに応じ、患者さんと家族の納得する、医療・療養・介護サービスを行います
- 3) 認知症疾患の医療・介護の充実をはかり、地域の高齢者医療・福祉に貢献します

しかし、現在では、病歴が長い患者の多くに認められるようになり、市中にもみられ、院内のみで発症する特殊な菌ではなくなっています。

このMRSAに対して当院では以下のことを行っています。

入院患者のMRSA保有状態の把握のため、毎月1回は動向推移の統計(サーベイランス)を報告する。

MRSA保有患者の発病、保菌、解除の基準を定め、その増減によって、対策内容の評価につなげている。

発病、保菌の基準であれば、隔離して接触感染対策を徹底し、感染防止に勤める。

当院に入院された時点での、患者のMRSA菌検出の有無を確認し、保菌者であれば家族にそのことをお伝えする。

発病、保菌患者に対する除菌対策に効果的な手段は少ないのですが、外部からの持ち込み以外の院内発症を防止することに主眼を置いています。

その結果、平成22年5月にMRSA保有患者31名であったのが、平成23年5月では19名でした。MRSA保有患者数が減少しており、感染対策の効果が出ていると考えています。

す。

MRSAについては問題点が多く、次の2点が挙げられます。

(1)MRSA保菌者に治療は必要か

MRSAが痰から検出されても、

発熱などの症状のない患者も多くおられるので、症状のない患者にMRSAに効果のある抗生剤を使用しても、その抗生剤の副作用や耐性菌の出現も考えられ、患者に利点があるかは疑問です。MRSAが痰から検出された場合は、できるだけ口腔内を清潔にして、発熱などの症状のある時のみに抗生剤の使用がよいと考えています。

(2)当院入院時にすでにMRSA保有している患者の増加

当院では、入院された時に痰のMRSAの有無を調べています。新規入院患者の約3割に検出され、外部からの持ち込みが多く、院内のみの対策の限界を感じています。

以上、MRSAを例に挙げて院内感染対策を述べましたが、ICTのスタッフは感染対策の重要性を認識していますので、これまで以上に努力を続けます。

「昇任のあいさつ」

看護部長 藤森 和恵

この度、2年間の病棟師長職を経て、看護部長に昇任しました。

師長の2年間は、大変ではありましたが、病棟スタッフに助けられ、私のモットーである「仕事は、楽しくしよう！」の気持ちで、スタッフと共に務めることができました。病棟スタッフの皆さんには、大変感謝しています。

以前、はりま病院に勤務していた時、前理事長先生より「教務」のお話を頂いたことがありました。その時私は、「患者さんの傍にいたい」と言う理由で、お断りしました。

そして今回、看護部の総責任者である職に着任するにあたり、患者さんや、病棟スタッフから離れることが、最大の寂しさでした。とは言っても、めまぐるしい毎日に、寂しさを、感じていた余裕がありません。たまにベッドサイドに行き患

者さんとお話する時、ほっとしている自分がいます。やっぱり私は、臨床の看護師なんですね。

さて、未熟者の私が看護部長になり、役割や責任を果たすためには、皆さんのご協力と、ご支援をお願いしなければなりません。

すでに、ご協力を頂いていますが、今後ともよろしくお願ひします。微力ではありますが、長く勤めてもらえる職場環境づくりと、ほんまもんの医療に貢献できるスタッフの育成に、努力していきます。

皆さんといっぱい、いっぱい話し合っ、ひとりではできないことを可能にしたいと考えています。

やっぱり仕事は楽しく!! スタッフの皆さんの元気で患者さんが笑顔になることを期待しています。どうぞ、よろしくお願ひします。

新入職員 入職



平成23年4月1日に仙齡会に4名の新卒新入職員が入職いたしました。

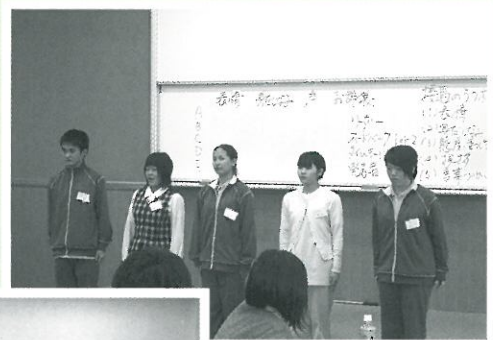
新入職員の方々は先ず4月1日の辞令交付を皮切りに、1日 仙齡会グループ入社式（グループ全体総数23名）、1日・4日 院内各種職員研修、5日 OAA はりまハイツにおいて外部講師による接遇研修、6日 各施設見学、7日 いなみ野病院 院内研修 を終え4月8日に各病棟へ配属となりました。皆さん最初は緊張の面持ちで研修に参加されていましたが、最終日には同期の仲間とも徐々に打ち解けられ笑顔も垣間見られました。今後、各部署に置かれましては、右も左も分からず色々とお迷惑をお掛け致すと思いますが御指導の程宜しくお願いします。

新入職員研修スケジュール

1日目	4月1日(金)	はりまクリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・辞令交付 ・事業所紹介 ・入社式 ・記念撮影 ・仙齡会について
2日目	4月4日(月)	はりまクリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則 ・看護部長より一日の流れ・心構え ・各規程 安全規則について ・服装貸与
3日目	4月5日(火)	OAAはりまハイツ	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修
4日目	4月6日(水)	各施設見学	<ul style="list-style-type: none"> ・いなみ野病院→聖園→はりま病院 ・理事長と新人職員との昼食会 ・はりまクリニック→通所リハビリテーション ・訪問看護ステーション→小規模多機能 ・新はりま病院→いなみ野病院→みどり園→ケアハウスあじさい



◀はりまクリニック前にて



挨拶コンテスト▶



◀仙齡会グループ入社式
出席者全員での記念撮影

▼院外研修



制服を着て記念撮影▶



2分間スピーチ

12月

本館2階 水本 明日香

私が介護士を目指したきっかけをお話させていただきます。

1995年1月17日、ものすごい轟音と激しい地面の揺れを感じ、目が覚めました。部屋の中は真っ暗で、何が起きているのか分からず、泣きながら横にいるはずの母に手を伸ばしました。しかしそこには、暖かく柔らかい布団の感触はなく、あるのは冷たく無機質なテレビの感触だけでした。私は昔から寝ざうが悪く、そのときも自分が寝ていた場所から1mほど横にずれていました。テレビは私が最初に寝ていた場所に落ちていたのです。もし私の寝ざうが良く、そのままの場所で寝ていたら、まだ4歳だった私の頭部なんて、ぺしゃんこだったでしょう。

そのころ家の近くに祖母が住んでいたのですが、無事体育館へ避難してしまいました。しかし、元々目が悪く、かろうじて人の見分けがつかない程度にしか見えていなかった祖母の目は、震災で歪んだ地面につまづいて転んだせいで全く見えなくなっていました。

その際、お世話になったのが一緒に避難していた介護士の方やボランティアの方々でした。見えないというのに余震で地鳴りが起こり始め、途方にくれていた祖母を、体育館まで送り届けてくれたのです。食事や水の普及が始まったときも、祖母を気遣い、一緒に歩いてきてくださったり、目が見えなくなると1人でトイレに行けなくなると祖母を誘導してくれたり、本当に様々なことを助けていただきました。ボランティアで地方から来て下さった方々や、自分も被災したのにボランティア活動に参加する方々もいて、私たち家族を含め、たくさんの方々が救って下さいました。私はそのときまだ4歳で

したが、幼心にこう思いました。「わたしも、大きくなったらだれかのためにいたらきたい!」そして、大好きなおばあちゃんとおとうさんとおかあさんをめいっばい幸せにしてあげよう!」
そして月日がたち、私が中学校にあがったころ、手術してほんの少しだけ見えるようになった祖母が、私に介護士になるように勧めてきました。そのころ祖母は神戸で一人暮らしをしていたので、母のすすめでデイサービスに通い始めていました。その介護士さんがとても優しくしかも声がおそろしくりだそうで、「お前は優しい子やからきつとそういう仕事がある。おばあちゃんには分かる。」と何度も言われまわりました。そのときはまだはつきりとはどういう仕事かとは決まっていなかったのですが、幼少時に思い描いた「誰かを助ける仕事かしたい」という思いは強く、そして何より、震災時にお世話になった方も介護士だったので、そういう仕事がいいという願望が芽生えました。

1月

本館3階 諸見 千郁

近く一緒に暮らすであろう祖母をめいっばい幸せにしてあげたいと思います。

あけましておめでどうございませう。
私は去年、今流行りの山登りを始め、高砂市の「たかみくら」、鳥取県の「大山」などに登りました。

初めて山登りをした時に驚いた事があります。それは「あいさつ」です。

山の中で誰かとすれ違ったりする時に必ず「おはようございませう」「こんにちは」「あいさつ」をしてくれ、時には「暑いですね」と声を掛けてくれたりもします。

小学生ぐらいの子供に元気がよく大きな声で「こんにちは」と言われると、元気を分けてもらった様に思います。

初めは知らない人に「あいさつ」する事に慣れず、恥ずかしさもありました。が、今では慣れて、自然に「あいさつ」をしています。

「あいさつ」をされても自分から「あいさつ」しても気持ちのよいもので、す

2月

南館1階 渡辺 広美

1月28日の院内シンポジウムのリハーサルに行ったときの事です。

すでに私たちの前に練習をしている人がいました。その人は、1人でパソコンを操作しながら発表をしていました。

私たちの南1階のフロアーは、発表する人と、パソコンを扱う人を分けていたので前回の介護研究の発表時とは違うスタイルでし

た。私はパソコンを使う役
でした。

発表をする演台のみで
は、発表者の横でパワーポ
イントの次のスライドに移
すタイミングを書いてある
メモを見ることができず、
内心、困ったな...と思っ
ていました。

私たちの練習の番にな
り、いざ、パワーポイント
をプロジェクトを通して
画面に映してみると、上部
三分の一ぐらいが画面に
映っていませんでした。シ
ンポジウムまで後数十分し
かないこともあり、あせり
ました。秘書の松田さんが
色々パソコンを操作してく
れ、「なんでかな、どうし
よう...」といいながらも、
私たちの事をきにかけて、
「大丈夫ですよ」と笑って
声をかけてくれました。

しばらくすると、折山さ
んがきて、画面に映るよう
にしてくれました。その時
に、私たちは今まで発表す
る人とパソコン操作する人
を分けてしかやってきてい
ないことを伝えました。
「それじゃあ、演台の近く
のまえの方に座ってください
い。発表するときには、僕
がパソコンをその机の上に
移しますから。僕、近くに
いますから。」と柔軟に、
そして親切に対応してくれ

ました。

松田さんと折山さんに不
安をやらせてもらえよう
うな、優しい声掛けをして
いただき、ほっとしたのと
うれいしのと、感謝の思い
で幸せな気持ちになりました。

きつと、松田さんも折山
さんも、ごく自然にあのよ
うな優しい対応してくれ
たので、普段から親切なん
だろうなと思いました。
私は毎日、患者様と関わ
ります。患者様の不安をや
わらげ、少しでも「あなた
の顔見たらほっとするわ。」
と言われるような、職員に
なれるようにがんばりま
す。そして、松田さん、折
山さんありがとうございました。

3月

南館2階 中束 由希乃

私はこの病院に勤める以
前はケーキ屋に勤めていま
した。その時の事をお話し
させていただきます。

私が勤めていたケーキ屋
には小さなカフェスペース
があり、そこに毎日の様に
訪れる年配のお客様が
らっしゃいました。
来店される内に顔も覚

え、次第に言葉がかわす様
にもなりました。クリスマス
ス前で忙しかったある日、
いつもの様にコーヒを飲
みに来られたお客様が、私
の顔を見て
「おねえちゃん、どうし
たん!？」
と聞いてこられたので

私は訳が分からず、どう
いう事が聞き返すと、
「いつもの元気な笑顔と
ちやうど? 疲れとる?」
と言われました。

お客様にこの様な事を言
われる事自体、本来あって
はならないのですが、そん
な当たり前的事すら出来な
い程に、当時の私には余裕
が無かった様です。
その後、お客様はこう続
けられました。

「私な、ここに来ると皆
に元気を分けてもらってる
気になるねん。おねえちゃ
んにいつもの元気が無いと
調子狂ってまうわ。」
そう言って、私にとても
素敵な笑顔を見せて下さい
ました。その時私は思いま
した。

「こんな素敵な笑顔で人
と接するようになりたい」
と。
それから私は「心からの
笑顔」を心がけるようにな
りました。まだまだ出来て

5月

医局 田淵 義明

日頃は難聴のため、皆様
に何かとご迷惑をかけて居
ります。

昭和18年(1943年)、
旧制中学2年生の頃、メニ
エル氏病にかかり、激しい
めまいと耳鳴りに襲われ、
左難聴が残りました。その
後、右耳はよく聞こえ、生
活上、特に問題はありませ
んでした。「昨年10月28
日、突然のいわゆる突発性
難聴にかかりました。この
病気は原因不明で、従って
治療法も確定していないと
いう難病です。

その為、この様に喋って
いると自分の声は良く聞こ
えますが、声の大きさや声
の質(上ずっているとかハ
スキーだとか)が分から
ず、喋っていて不安があり
ます。その為、人前で喋る
事はいつもお断りしている
のですが、今回は2日前の
土曜日の朝に突然申し渡さ
れ、大変困りました。

ところで、当院入院中の
患者さんは殆どが高齢者
で、必然的に大なり小なり
老人性難聴があると思われ
ます。

難聴には音を伝える装置
の故障による伝音性難聴
と、伝わってきた音を聞き
分ける部分の傷害による感
音性難聴と、この両者が合
併した混合性難聴がありま
す。

耳垢、外耳炎、中耳炎等
の伝音性は音を大きく伝え
れば、それなりに聞こえる
ので補聴器が有効です。
内耳から中枢に至る部分
の障害による感音性は伝
わってきた振動を分別して
音として聞き分ける能力が
落ちているので、会話は大
変不便です。声は雑音とし
て入ってきて、それを

「ア」と「ガ」とか「サ」
と「タ」とか判別するのが
難しい。その為、補聴器で
拡大されてきた振動を言葉
として聞きとる時、判別の
為、一瞬の時間を要しま
す。

以上の事から、入院中の
患者さんに話しかける場
合、普通の人に話しかける
よりも、いくらかゆっくり
喋ってあげたら、いつも聞
き流していた言葉も通じる
かも知れません。また高い
声も聞き分け難いです。

皆勤賞

表彰

今後もしなみ野病院では新入職員だけでなく全従業員が十二分な教育を受けられるよう支援して行きますので、ご理解ご協力をお願い致します。

と 思 わ れ ま す 。

が 十 分 に な さ れ た 結 果 だ

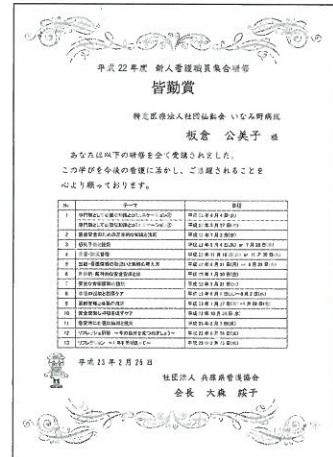
護 職 員 に 対 す る サ ポ ー ト

さ と 伴 に、 病 院 の 新 人 看



看護協会主催による「平成22年度の新人看護職員研修の全テーマ(全13回)」を受講され兵庫県看護協会より皆勤賞で表彰されました。これは本人の学習意識の高さと共に、病院の新人看護職員に対するサポートが十分になされた結果だと思われま

この度、本館1階病棟の准看護師板倉公美子さんが、社団法人兵庫



ペットのご紹介



飼い主 本岡 由佳 (本館1階病棟)

ペットの名前 まめ

一言コメント 男の子みたいな女の子です

編集後記

東日本大震災の映像を見ていると、人の力が自然の力に対して非常に無力であるのが痛感されます。当院でも何かしなければと義援金を集め神戸新聞社に持参いたしました。この様な微力な力でも被災に遭われました皆様の少しでもお役にたてればと思います。

いなみ野病院 概要

診療科目 内科、リハビリテーション科
 病床種別 療養病床 290床

(医療保険 1病棟 50床)
 (介護保険 4病棟 240床)

診療報酬上の施設基準

医療保険

- 療養病棟入院基本料 1
- 療養病棟療養環境加算 3
- 脳血管疾患等リハビリテーション(I)
- 運動器リハビリテーション(I)
- 入院時食事療養(I) ・栄養管理実施加算
- 薬剤管理指導料

介護保険

- 病院療養型 I型
- 夜間勤務条件基準 減算型
- 職員の欠員による減算の状況 なし
- ユニットケア体制 対応不可
- 療養環境基準 基準型
- 医師の配置基準 基準
- 栄養管理の評価 栄養ケア・マネジメント体制
- 身体拘束廃止取組の有無 あり
- 特定診療費項目 薬剤管理指導
- リハビリテーション提供体制
- 理学療法 I ・作業療法 ・言語聴覚療法 ・その他